

## 介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 オアシスケア介護福祉養成校

研修事業の名称 介護職員初任者研修 通信コース

1 職務の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			
① 多様なサービスの理解	2 時間	(講義内容) ・介護という職業について、介護保険制度下の在宅(居宅)サービス、及び施設サービスの内容を中心とし、その他の福祉サービスについても解説する。 (演習内容) 介護サービスの種類を一覧表にまとめてみる。			
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	(講義内容) ・居宅及び施設における介護職の具体的な仕事内容、サービスを提供する現場の状況、ケアプランから始まる介護サービス業務の流れを開設する。 (演習内容) ・介護サービスの内容を、他のサービスとの違いがわかるように一覧表にまとめる。			
合計	6 時間				
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 人権と尊厳を支える介護	4.5 時間	0.75 時間	3.75 時間	課題 ① ④ ⑤ ⑥ 問題 ②	(講義内容) 介護サービスの利用者の人権の保持、QOL、ノーマライゼーションなどの理論、身体拘束禁止、虐待防止や個人情報保護などについて解説する。 (演習内容) 受講生が身近に感じる偏見や差別について討議する。 (添削課題の出題ポイント) 人権と尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止、個人情報の権利を守る制度について

② 自立に向けた介護	4.5 時間	0.75 時間	3.75 時間	課題 ② ③ ⑦ 問題 ①	<p>(講義内容)</p> <p>利用者の自立・自律支援、残存能力の活用、自己実現の支援など、自立に向けた介護の在り方、介護予防について解説する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>教科書に紹介されている事例を通じて、「自立支援」について討議する。</p> <p>(添削課題の出題ポイント)</p> <p>自立支援とは、意欲を高める支援、介護予防について</p>
合計	9時間	1.5 時間	7.5 時間		

### 3 介護の基本 (6時間)

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2.5 時間	1 時間	1.5 時間	課題 ① ③ 問題 ① ② ③	<p>(講義内容)</p> <p>地域包括ケアの方向性、重度化防止やチームケアの重要性、多職種から成るチームケアについて解説する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>介護の理念、専門職の7つの条件を全員で読み上げ体系的な理解を促す。</p> <p>(添削課題の出題ポイント)</p> <p>地域包括ケアの方向性、利用者主体の支援姿勢(自己実現の支援)、チームケアについて</p>
② 介護の職業倫理	0.5 時間	0.5 時間	0 時間		<p>(講義内容)</p> <p>介護の基本となる倫理、社会的責任、プライバシーの保護、利用者の主体性の尊重などについて解説する。</p>
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2.5 時間	1 時間	1.5 時間	課題 ② ④ 問題 ④ ⑤	<p>(講義内容)</p> <p>介護における安全の確保、事故予防、安全対策、感染の原因や経路の遮断等、リスクマネジメントの全般を解説する。</p> <p>(添削課題の出題ポイント)</p> <p>介護における安全の確保、事故がおこってしまったときの対応指針、感染症対策、感染症予防について</p>

④ 介護職の安全	0.5 時間	0.5 時間	0 時間		(講義内容) 介護職自身の健康管理、ストレスマネジメント、腰痛予防、その他、健康管理全般の知識、対策方法について解説する。  (演習内容) 講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシュミレーションする。
合計	6時間	3時間	3時間		

#### 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護保険制度	5時間	0.5 時間	4.5 時間	課題 ① ③ ④ 問題 ①	(講義内容) 介護保険創設の歴史、制度の目的、保険制度の基本的な仕組み、介護給付、要介護認定、及びケアマネジメントなどについて解説する。  (添削課題の出題ポイント) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向、基本的仕組み、介護給付と種類、保険給付以外の事業、制度を支える財源について
② 医療との連携とリハビリテーション	2 時間	0.5 時間	1.5 時間	問題 ②	(講義内容) 医療と看護、介護の役割、連携、リハビリテーションの概念を解説する。また、介護現場においてリハビリに携わるスタッフの役割を理解する。  (添削課題の出題ポイント) 医療と介護との連携、医療行為と介護について、リハビリテーションの意義と目的
③ 障害者総合支援制度及びその他制度	2 時間	0.5 時間	1.5 時間	課題 ② ⑤ 問題 ③	(講義内容) 障害者総合支援法、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援制度について解説する。  (演習内容) 高齢者や障害者を支える制度にはどのようなものがあるか、一覧表にまとめ、全体を把握する。一覧表が完成しない場合は宿題とする。  (添削課題の出題ポイント) 障害者総合支援法の背景、基本的な構造、運営と現状、生活保護法、日常生活支援事業について
合計	9時間	1.5 時間	7.5 時間		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護におけるコミュニケーション	3時間	1.5 時間	1.5 時間	課題 ① ② 問題 ① ③	<p>(講義内容)</p> <p>介護におけるコミュニケーションの意義、傾聴、共感などの具体的な技法、利用者や家族との関わり方、信頼関係形成方法を解説する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>受講者をグループに分け、講師の指導のもと、介護職・利用者・家族のコミュニケーションのロールプレイングを行う。</p> <p>(添削課題の出題ポイント)</p> <p>介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割、技法、ツール、利用者・家族との交流、利用者の状況に合わせた技法について</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	1.5 時間	1.5 時間	課題 ③ 問題 ②	<p>(講義内容)</p> <p>介護における観察・記録の重要性、チーム内での情報の共有化、個別援助計画書、ヒヤリハット報告など、5W1Hの意義、ケアカンファレンスの重要性を解説する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>教科書の事例を検討し、チームを結ぶ「記録」の重要性を学ぶ</p> <p>(添削課題の出題ポイント)</p> <p>記録による情報の共有化、報告・連絡・相談、コミュニケーションを促す環境について</p>
合計	6時間	3時間	3時間		

6 老化の理解（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 老化に伴うところとからだの 変化と日常	3時間	1.5 時間	1.5 時間	課題 ① 問題 ① ②	<p>（講義内容）</p> <p>老化に伴う心身の機能変化、日常生活への影響について、身体機能や精神的機能の変化を中心に解説する。</p> <p>（演習内容）</p> <p>加齢に伴って起こる様々な変化と症状を受講生全員で洗い出し作業を行う。</p> <p>（添削課題と出題のポイント）</p> <p>老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴、身体的機能の変化と日常生活への影響、知的能力の老化と特徴について</p>
② 高齢者と健康	3時間	1.5 時間	1.5 時間	課題 ② ③ 問題 ③ ④	<p>（講義内容）</p> <p>高齢者のかかりやすい疾病、日常生活面での注意点、循環器障害と対策、うつ病等の精神疾患、誤嚥、肺炎などについて解説する。</p> <p>（添削課題の出題ポイント）</p> <p>高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について</p>
合計	6時間	3時間	3時間		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 認知症を取り巻く状況	0.75 時間	0.75 時間	0 時間		(講義内容) 認知症ケアの理念であるパーソンセンタードケア、認知症のケアの視点を観察する。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2.25 時間	0.75 時間	1.5 時間	課題 ④ 問題 ① ③	(講義内容) 認知症とは何かを原因とその病態、原因疾患別ケアの方法、治療方法を解説する。 (添削課題と出題ポイント) 認知症の定義、認知症に似た症状(もの忘れ、せん妄など)、健康管理、認知症の原因疾患とその病態について
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2.25 時間	0.75 時間	1.5 時間	課題 ① ② ③ ⑤ 問題 ②	(講義内容) 認知症による生活障害、心理、行動の特徴、心理状態、不適切なケアについて、また一方で適切なケアの具体的な方法、コミュニケーションの方法、認知症の進行に合わせたケアの方法を解説する。 (演習内容) 様々な認知症の症状に対し、どのようなケアが考えられるか討議する。 (添削課題の出題ポイント) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴、認知症利用者の対応について
④ 家族への支援	0.75 時間	0.75 時間	0 時間		(講義内容) 認知症の利用者の家族との関わり、援助方法、介護負担の軽減方法(レスパイトケア)について解説する。 (演習内容) 事例を基にどんなレスパイト方法があるか討議する。
合計	6時間	3時間	3時間		

8 障害の理解 (3 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 障害の基礎的理解	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	課題 ① ② 問題 ①	(講義内容) 障害の概念、ICF の考え方、ノーマライゼーションについて解説する。 (添削課題の出題ポイント) ICF、ノーマライゼーションについて
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	課題 ③ 問題 ③	(講義内容) 身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身障害について解説する。 (演習内容) 受講者がペアを組み視覚障害者の歩行を実践する。 (添削課題の出題ポイント) 視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼機能障害、脳性まひ、内部障害、精神障害、発達障害などについて
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	問題 ②	(講義内容) 利用者の家族への支援方法、介護負担の軽減について解説する。
合計	3 時間	1.5 時間	1.5 時間		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）

基本知識の学習	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	① 介護の基本的な考え方	3 時間	1 時間	2 時間	課題 ① 問題 ①	<p>(講義内容)</p> <p>ICF に基づく介護の理論、法的根拠に基づく介護について解説する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>求められる介護者像をグループディスカッションし、その内容を整理して発表する。</p> <p>利用者主体の介護の良い例、悪い例について、受講生の意見を求め、ディスカッションする。</p> <p>(添削課題の出題ポイント)</p> <p>介護の基本的な考え方、医療サービスと介護サービスの「アプローチ」の違い、高齢者の自立支援</p>
	② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4 時間	1 時間	3 時間	課題 ② 問題 ②	<p>(講義内容)</p> <p>介護の実践に必要な人間のこころのしくみの基礎的理解、感情や意欲、生きがい、こころとからだの密接な関係性を解説する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>高齢者の生きがいとは何か、課程や地域社会における支援の在り方についてグループ討議ディスカッションを行い、発表する。</p> <p>(添削課題の主題ポイント)</p> <p>感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響について</p>
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	1 時間	2 時間	問題 ③ ④ ⑤	<p>(講義内容)</p> <p>人体の各部の名称、機能に関する基礎知識全般を解説する。</p> <p>(添削課題の出題ポイント)</p> <p>人体の各部の名称と動き、バイタルサイン、骨・関節・筋、中枢神経等と抹消神経、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉える</p>



生活支援技術の講義・演習	④ 生活と家事	6 時間	3 時間	3 時間	課題 ③ ④ 問題 ⑥  (講義内容) 生活と家事の理解、生活援助の実践方法、 利用者の主体性、能動性を引き出す自立支 援の方法を解説する。  (演習方法) 利用者を想定し、家事サービスの内容をグ ループで討議する。 限られた少ない食材でレシピを考え、グル ープごとに発表する。  (添削課題の出題のポイント) 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎 知識と生活支援について
	⑤ 快適な住環境整備と介護	5 時間	3 時間	2 時間	課題 ⑤  (講義内容) 高齢者、障害者の日常生活に適合する居住 環境整備、バリアフリー、住宅改修、福祉 用具について解説する。  (演習内容) 快適な住環境を整備するための知識や福 祉用具を、画像や資料で紹介する。  (添削課題の出題ポイント) 快適な住環境に関する基礎知識、高齢者・ 障害者特有の居住環境整備と福祉用具に 関する留意点と支援方法について
	⑥ 整容に関連したところと からだのしくみと自立に向 けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	(講義内容) 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱の方 法、身支度、整容方法、洗面の方法につ いて解説し、実技指導を行う。  (演習方法) 身体状況に合わせた衣類の選択、着脱方 法、身支度、整容方法、洗面の方法につ いて解説し、実地指導を行う。  (演習内容) 身体状況に合わせた衣類の選択、着脱、身 支度、整容行動、洗面の方法の模擬演技、 反復練習、習得度確認を行う。

⑦移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	7 時間	7 時間	0 時間	<p>(講義内容)</p> <p>移動・移乗に関する知識、安全安楽な姿勢保持の方法、ボディメカニクスの実践方法、車イスの操作方法、車イスへの移乗方法、杖歩行の支援や、歩行補助具の使用方法などを解説し、実技の支援を行う。</p> <p>(演習内容)</p> <p>ベット上での体位交換、起居動作、ポータブルトイレや車イスへの移乗方法、車イスの基本操作方法、移動用具、ボディメカニクスの応用、重心・重力の置き方、残存能力の活用の仕方などについて講師が模擬演技、反復演習、習得度の確認を行う。</p> <p>屋外での車イス操作の実践練習を行う。</p>
⑧食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	<p>(講義内容)</p> <p>食事介助の方法、食事と健康、嚥下のメカニズム、誤嚥防止、福祉用具の活用方法、介護食などについて解説し、実技指導を行う。</p> <p>(演習内容)</p> <p>介護食材、トロミ材を用意し、制作、試食する。</p> <p>食事介助の基本方法を講師が模擬演技し、反復演習する。特に介護者の立ち位置、利用者の姿勢をポイントとする。</p> <p>映像を利用して嚥下のメカニズムを学習し、利用者の状況に合わせた食事介助の方法を講師が演技する。</p> <p>受講生はそれに倣って繰り返し練習する。</p>
⑨入浴、清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	<p>(講義内容)</p> <p>入浴の介助方法、清潔保持の目的、手浴・足浴・洗髪、陰部洗浄、清式方法等について解説し、実技指導を行う。</p> <p>入浴、清潔保持に必要な様々な入浴用具、整容用具を紹介する。</p> <p>浴槽を準備し、入浴介助の手順、安全確認、福祉用具の使用方法、利用者への接し方の実践演習を行う。</p> <p>羞恥心、尊厳を守る環境整備、声掛け、気遣いの方法を学ぶ。</p> <p>受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。</p>

<p>⑩排泄に関連したところから からだのしくみと自立に向けた 介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>(講義内容) おむつ交換など排泄介助の方法、ポータブルトイレなど排泄用具の使用 方法、プライバシーや心理的負担への配慮、尊厳の保持、トイレ介助 などについて解説し、実技指導を行う。 (演習内容) ポータブルトイレやオムツの使用 方法の実技を行う グループによる事例検討。 受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。</p>
<p>⑪睡眠に関連したところから からだのしくみと自立に向けた 介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>(講義内容) 睡眠の知識、安眠のための環境整備、ベットメイキング、褥瘡 予防について解説し、実技指導を行う。 (演習内容) 快適な睡眠環境の作り方、睡眠用具の紹介、活用方法を紹介する。 睡眠のメカニズムを学ぶ ベットの構造、機能、操作方法を学ぶ。 ベットメイキングの方法を学ぶ 受講生は繰り返し練習し、練習を通して習得度を確認する。</p>
<p>⑫死にゆく人に関するところ からからだのしくみと終末期 介護</p>	<p>3 時間</p>	<p>3 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>(講義内容) 終末期に関する知識、死に至る過程、介護従事者の心構え、基本 的態度について解説する。 (演習内容) 事例を通してグループ討議し、発表する。 事例を関し、講師の体験談を基に、利用者本人や家族に対して できることを受講生にアドバイスする。</p>

生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎理解	3.5 時間	3.5 時間	0 時間		<p>(講義内容)</p> <p>様々な介護事例を通して介護の目的、計画に沿ったサービス提供の重要性、具体的な展開方法、チームアプローチなどについて解説する。</p> <p>(演習内容)</p> <p>具体的な事例を通して介護の目的、計画に沿ったサービス提供の重要性、具体的な展開方法、チームアプローチなどについて解説する。</p> <p>総合生活支援技術演習の実地方法をオリエンテーションする。</p>
	⑭総合生活支援技術演習	10.5 時間	10.5 時間	0 時間		<p>(講義内容)</p> <p>利用者の具体的な事例を課題として、学習した介護実技を実践的に学ぶ。事例は2事例を用意し、グループ単位で課題に取り組み介護計画の立案、実技を通して介護の手順の習得と技術習得のレベルの確認、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う。</p> <p>(演習内容)</p> <p>別紙「総合生活支援技術演習計画書」のとおり</p>
実習		0時間				
合計		75 時間	63 時間	12 時間		
10 振り返り ( 4時間)						
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法			
① 振り返り		2時間	<p>(講義内容)</p> <p>福祉サービス環境の最新情報の提供</p> <p>介護業務における基本的態度について模擬演習</p> <p>今後のキャリアアップのための要点整理</p>			
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修		2時間	<p>(講義内容)</p> <p>継続して学ぶべきことと、事業所等における研修についての理解</p>			
合計		4時間				
全カリキュラム合計時間		130時間				

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること